

● 広報

おくぜい



この一瞬

現在、あまり見ることができなくなった投網。宮の台の齋藤智明さんは、23歳で始め、独学で投げ方を研究し50年以上続けている。齋藤さんは「やっぱり魚がかかったときが一番だな。」と投網の醍醐味を話す。多い時には1度に50匹以上も掛かることもあるという。川を知り尽くした名人が、「一網打尽」と網を打つ。

2018

7

No. 765

新しい時代を見据えた

白い森おぐにの教育

人口減少や急速な技術革新など社会環境の変化に加え、新たな学習指導要領が示され、教育を取り巻く環境が大きく変化しています。これに対応するため、町ではこれまで進めてきた独自の取り組みである小中高一貫教育を改訂し、保育園から小学校、中学校、高校までの15年間を連携した取り組みとする「保小中高一貫教育構想」を昨年度取りまとめました。

今月は、保小中高一貫教育構想の概要と学校運営協議会や地域学校協働本部など学校、地域、家庭が連携した本町教育の取り組みを紹介します。

（保小中高一貫教育構想と 学校・地域・家庭の連携）

保小中高一貫教育構想を

平成29年度に策定

本町では、平成13年度から平成18年度までの6年間、町内の全小中学校と県立小国高校が文部科学省から研究開発学校としての指定を受け、小中高一貫教育の実践に取り組んできました。その後も国際理解・情報教育などを町独自の取り組みとして展開してきました。

い森学習」と定義し、小国高校の「国際教育」、「情報教育」、「地域文化学」と連携した取り組みを図ってきました。

こうした中、平成29年3月に新たな学習指導要領改訂が示され、小学校で平成32年度から、中学校で平成33年度から全面实施されることになるなど、教育を取り巻く環境は大きく変化しています。

そして、平成23年度からは、町内全ての小中学校が、文部科学省から「教育課程特例校」としての指定を受け、「国際・情報」の学習を特設教科として位置づけるとともに、「地域学習」と「キャリア教育」の2つを含む総称として「白

こうした動きに対応するため、町では、これまで進めてきた个性的かつ独自の取り組みである小中高一貫教育を発展させ、保育園から小学校、中学校、高校までの15年間を連携した取り組みとする「保





小中高一貫教育構想」を昨年度取りまとめました。

この構想では、郷土を愛し国際的な視野を持った「未来を創る人間力」の育成を目指して、保育園から小学校、中学校、高校における各種種間の接続に係る取り組みを一層強化しながら、「国際」、「情報」、「白い森学習」について系統性と連続性、互恵性を大事にした確かな教育を展開することとしています。

また、白い森おぐにを愛し郷土を担う心情を育む「キャリア教育」や、子ども一人ひとりの教育ニーズに応じる「特別支援教育」の充実を図るとともに、「交流学习」や「交流授業」にも積極的に取り組みながら、子どもたちの主体的・協働的な学びを進めていくこととしています。

保育園と

小学校の連携

近年、「小1プロブレム」

や「中1ギャップ」という言葉で表現されるように、全国的に各校種間の違いに順応することが難しい子どもたちが増えています。

こうした中、本町では今年度から新たに保小連携コーディネーターを教育委員会に配置し、町内全ての保育園と小学校との情報共有や保育園と小学校の連携・接続に係る実践が円滑に進むように、その調整を図っています。

保小連携コーディネーターの渡部容子さんは、「昨年までは毎年6月に行われていた小学校と保育園の懇談会の際に、1年生の様子を見て、とても立派な小学生になったと感心していましたが、実はそれは緊張した子どもたちの姿を見ていたということに今回気付かされました。今年4月に小学校に行った際、保育園で先生の話静静地に聞いていた子どもが、先生の話聞くことができていなかったり、



▲小国小学校1年生の授業の様子を見守る渡部容子さん

じつとしていられなかったりする光景を目にして、これまでに以上に保育園でそうしたことを教えていく必要性を感じました。小学校は保育園と違い自分で何をするか考えて行動する場面が多くあります。話を聞くことなど基本的な生活習慣が身につけていないと小学校で戸惑ってしまうのだと感じさせられました。現在は、子どもの様子を見て、感じたことや気付いたことなどを学校と共有していますが、

今後はこうしたことを町内の保育士のかたがたと共有し、保育の現場に生かしていければと考えています。」と話してくださいました。

幼児期から

英語とふれあう

また、本町では児童の豊かな感性を育むため平成25年度から「幼児英語ふれあい事業」を始め、町内の保育園において、幼児期から気軽に英語にふれあう活動を展開してきました。

こうした中で、これまで小学5・6年生が「外国語活動」として英語を学習していましたが、新たな学習指導要領では小学3・4年生で「外国語活動」を学習し、小学5・6年生では「外国語（英語）科」と呼ばれる教科として取り扱われることとなりました。

これに対応するため、町では、今年度から英語教育支援員を教育委員会に配置し、小



▲叶水小学校3・4年生の国際の授業を行う村上裕志さん

学校での国際の授業の一部を担当教諭と展開するとともに、これまで同様に保育園での英語ふれあい事業を設けています。

現在は、木曜日に叶水小学校で、金曜日に小国小学校で国際の授業を行っており、授業前に担当教諭と前回授業の振り返りやその日の授業の進め方、テーマ・目標などを設定・共有したうえで授業を展開しています。

英語教育支援員の村上裕志さんは、「保育園の子どもには、英語が楽しいと思ってもらえるよう気軽に英語にふれあえる内容で進めています。現在の小学生は、保育園で私が英語を教えていたためか、私の顔を見るだけで英語だというスイッチが自動的に入るように感じています。幼い時期から英語にふれることは、日本語と同じで、最初は意味が分からなくても、英語を話すときの口の動きなどを意識して教えることで、小学生や中学生から英語を学ぶ子どもより発音や理解がよくなるのではないかと考えています。私が子どもの頃、英語を話すことができる日本人は周りにいませんでした。小国の子どもたちは、早い時期から英語にふれることで、英語は『外国人が話す言語』という認識ではなく、相手に意思を伝えるコミュニケーションツールとして、『自分も話せるんだ』

と自信を持ってもらいたいですね。」と話してくださいました。

本町ではこうした取り組みに加え、学習支援員や学力充実支援員、教育相談員、読書推進司書など多方面から子どもたちの学習や学校生活をサポートする体制を構築しながら、教育環境の充実を図っています。



▲「幼児英語ふれあい事業」の様子

コミュニティ・スクールと

小国町合同学校運営協議会

コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会制度を導入している学校のことを指します。学校運営協議会とは、保護者や地域のかたがたがとも知恵を出し合い、学校運営にその意見を反映させることで学校と地域、保護者が協

働しながら子どもたちの豊かな成長を支え、「地域と共にある学校づくり」を進めるための仕組みです。

本町では、小国小学校と小国中学校が平成26年度に、叶水小中学校が平成28年度にそれぞれ学校運営協議会制度を

導入し、コミュニティ・スクールとして地域と共にある学校づくりを進めています。

また、学校統合によって広域化した学校区域の諸課題や小国の子どもと各学校が抱える教育課題の解決、次代を担う子どもたちの健やかな成長のため、地域が学校の応援団としての役割を担っていただけるように、町内の各学校運営協議会が参画する小国町合同学校運営協議会を平成28年度に設置しています。

その後、平成29年度には県立小国高等学校が東北の高校では初めて学校運営協議会制度を導入し、コミュニティ・スクールになりました。

これを受け、公立小中学校だけでなく、公立高校の学校運営協議会も参加することになりました。こうした取り組みは全国的にも少なく、本町がこれまで取り組んできた小中高一貫教育という特徴的な教育が土台となつてこうした



▲小国町合同学校運営協議会役員会の様子（6月12日）

取り組みを展開することができています。

小国町合同学校運営協議会の会長を務める小国中学校学校運営協議会長の舟山孝夫さん（若山）は、「現在町内の各学校運営協議会では、それぞれが独自に環境整備や読み聞かせ、下校時の見守りなど地域のかたがたの協力をいただきながらさまざまな活動を展開しています。そうした取り組みや学校が抱える課題を

町内全ての学校運営協議会が集まる合同学校運営協議会の場で情報共有しながら、町全体の取り組みとして広がりを見せていけるようになればと考えています。また、今後は学校運営協議会を核として地

地域が持つ教育力を最大限に生かす

白い森地域学校協働本部

域が学校と共に子どもたちを育てていけるように、全国各地の事例を学びながら、小国町の特性を生かした独自の取り組みとして確立していければと考えています。」と話してくださいました。

教育基本法が平成18年に戦

後初めて改正され、学校、家庭および地域住民等の相互の連携協力の重要性が示されました。また、平成28年には、地域と学校の連携協働のもと幅広い地域住民等が参画し、地域全体で学び合い未来を担う子どもたちの成長を支え合う地域を創る地域学校協働活動の推進などを盛り込んだ「次世代の学校・地域」創生プランが策定されました。

こうした中、本町では、地域との関わりを通じた体験型学習として小国小学校を活動



▲放課後子ども教室は多くの地域のかたが参画している

拠点とした「おぐに放課後子ども教室めっちゃ」や叶水小中学校を活動拠点とした「かのみず放課後子ども教室ひだ

まり」など、放課後や休業日に学校の教室等を利用した活動が行われています。

また、体験を通じた学びと交流に加えて、地域における学びの場づくりのため「白い森学習支援センター」を平成26年度に設置しています。

こうした社会教育や生涯学習などの分野とともに、豊かで多彩な将来に生きる学力を養成する機会の提供も行っています。が、さまざまな場面において地域のかたがたが講師やサポート役として参画しています。

このように地域住民や豊富な社会経験を持つ外部人材等の協力を得ながら、学校・家庭・地域の連携協働によるさまざまな取り組みを推進することで、地域全体で教育に取り組む環境が構築されていきます。町では、さまざまな体験プログラムを継続的に実施し、より多くの地域住民の参加を得るため、計画の企画提



▲白い森学習支援センターでは最新の教育も取り入れている

案とともに、関係者や地域ボランティアの発掘、自主的・継続的活動運営を支えるため、白い森子ども応援隊統括コーディネーターおよび白い森子ども応援隊コーディネーターを教育委員会に配置し、合同学校運営協議会委員や保小連携コーディネーターなど関係者・関係機関との合意形成を図りながら、子どもたちの多様な学びの場を地域のかたがたと共に作り、提供をしています。



▲小国中学校の中体連壮行式には、小国小学校の児童と小国高校の生徒も参加している

教育の不易流行を見極め、

本町教育の価値を再確認する

社会環境の変化や子どもを取り巻く教育環境が急激に変化する中、本町がこれまで進めてきた小中高一貫教育を保

小中高一貫教育に発展させるとともに、地域のかたがたの力を生かした、学校運営協議

会制度の導入や地域学校協働本部の取り組みなど新たな教育が進められています。

小国町教育委員会の遠藤啓司教育長は、「これからの教育は、環境変化が激しい中で、教育『不易流行』を見極めて

いく必要があります。

本町教育の不易である一貫教育を礎にし、未

来社会に生きる子ども像を的確に捉え、流行

となる学校運営協議会

制度や地域学校協働本部などといった新たな

教育理念や制度を積極的に取り入れながら、

本町に適合する教育を展開しなければなりません。

今年度から幼児期からの教育視点を取り入れた『保小中高一

貫教育』を中核に、2つの教育制度を組み合



▲小国小学校では下校時の児童の見守りを地域のボランティアスタッフのかたがたが行っている

わせながら本町教育の相乗的な教育効果を発揮していきたいと考えています。今後は、本町教育の将来を見据え、各制度の内容成熟と発展的な事業展開を図っていきます。また、現在それぞれの学校運営協議会の活動や組織体制を土台に、合同学校運営協議会では、本町の教育課題の共有や協働的教育事業に取り組むなど、全町的な体制を整えながら『地域と共にある学校』づくりを進めていきたいと考え

ています。小国の持つ豊かな教育資源を有効活用しながら、幼児期から小中高と切れ目なく多様な人々との関わりや体験的学習、経験を積むことで、将来を切り開く資質と能力を磨くとともに、社会の中で豊かでたくましく生きていける人間力を、町民一丸となつて育てていける環境を整えていきたいと考えています。地域から子どもへの一方通行ではなく、子どもが地域に元気を与える源として、相互の関係を構築できればと思います。」と話してくださいました。

町では、保小中高一貫教育構想を核として、学校運営協議会や地域学校協働本部など子どもたちの学び、成長に関わる多くのかたがたとの関わりを強化しながら、この取り組みを町内全域に広げることにより、本町教育と共に地域のさらなる活性化につなげていきます。



6月15日
アスモ

アスモに憩いの場 ～ブックカフェオープン～

アスモの旧ビオス店舗が、6月15日、ブックカフェとしてリニューアルしました。店内には、子どもが遊べる場所があるほか、お茶飲みや読書、休憩ができるスペースになっています。店内の本は、町民の皆さんから寄贈いただいたものです。

今後は、小国高校生による本の整理が行われるほか、ワークショップ、町民のかたの作品展示の場としても活用していく予定になっています。



6月1日-2日
北部地区

今シーズンの無事を願う ～第25回朝日連峰山開き～

第25回朝日連峰山開きが、6月1日、2日に北部地区で行われました。

1日には、地元関係者や山開き登山参加者約40人が出席し、神事が執り行われ、徳網地内の山の神に今シーズンの無事故を祈願しました。

2日には、県内外からの登山者約30人が4つのコースに分かれ、雪の残る朝日連峰登山を楽しみました。



6月9日
マタギの館

穏やかな時間の流れ ～小玉川屋号マーケット～

地区内の家庭に眠る食器や端布などを展示販売する「小玉川屋号マーケット」が、6月9日、マタギの館で開催されました。

会場では、鍋やグラス、町内で活動するハンドメイド作家の雑貨、白い森木工館の木工製品などの販売が行われたほか、泡の湯温泉にあるジュークボックスやレコードなどから懐かしの音楽が流され、店内は昭和レトロな雰囲気が漂っていました。



6月17日
総合センター

小さな命を観察 ～森の楽校～

教育委員会が主催する森の楽校が、6月17日、おぐに開発総合センター周辺で行われました。この日は、生きた化石とも呼ばれるチョウセンアカシジミの生態に関するビデオを見た後、町内のトネリコの木がある場所で観察会が行われました。観察会では運よく2頭を発見し、参加した親子はルーペを使いながら熱心に観察していました。



6月17日
クアーズテック㈱

ともに歩んできた地域に感謝して ～クアーズテック㈱80周年記念祭～

クアーズテック㈱小国事業所の80周年記念祭が、6月17日、クアーズテック㈱小国事業所協の駐車場で開催され、多くのかたがたが来場しました。

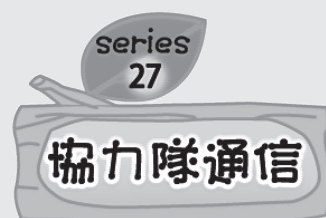
同事業所は、昭和13年に日本電興㈱小国事業所として操業して以降、これまで長年にわたって半導体製造装置などに用いられるセラミック部材の製造などを行ってきました。

この日は、大道芸人やYuiキッズダンス、小国高校吹奏楽部によるステージが行われ会場を盛り上げたほか、フードトラックやショッピングモールエコーによる飲食物の販売、縁日のブースなどが設けられ、訪れたかたがたが楽しんでいました。

また、クアーズテック㈱と小国町に関する〇×クイズも行われ、会場に集まった多くのかたが参加し、同社と本町のこれまでの歴史なども学べる機会となりました。



「あつちにこつちに」
6月はイベントが盛り沢山でした。



地域おこし協力隊
のぐち たつひこ
野口 達光

1、2日は朝日連峰の山開き。昨年と打って変わって、今年は素晴らしい天候に恵まれ、祝瓶山からの景色は、町中心部から飯豊連峰までくっきりと見渡すことが出来ました。

3日は消防演習。昨年入団し初めての演習でしたが、慣れない体の動きと暑さが体には少しこたえるものがありました。また、6月24日に行われた操法大会の選手にも選ばれ、精一杯やらせて頂きました。

15日は長沢地区のサロン。山形大学の看護実習生のかたに「口

コモティブシンドローム」という加齢による運動能力の低下について、予防のための気軽に取り組める体操や、食事についての話をしていただきました。

そして、7月からは昨年11月に実施した「地域交通空白地有償運送」がスタートします。昨年は1カ月のみの運行でしたが、今年度は3月末までを予定しています。町全体としても課題である交通手段について、ちょっとした不便を解消する試みになってもらえよう取り組んでいきたいです。



▲6月15日 長沢サロンの様子

技を^な絢う

その③

人と道具の物語

今からさかのぼること二百数十年前。ときの米沢藩主、上杉治憲公（鷹山公）は膨大な借金を抱えた藩財政の立て直しを目指し、漆・桑（蚕の餌）・楮（こうぞ、紙の原料）の植栽と管理を強力に進めました。漆は、塗りに物に樹液が用いられただけでなく、当時はロウソク（木蝋・もくろう）の原料として実也需要がありました。これらの収量を上げることで領内の殖産（しよくさん）を図ったのです。

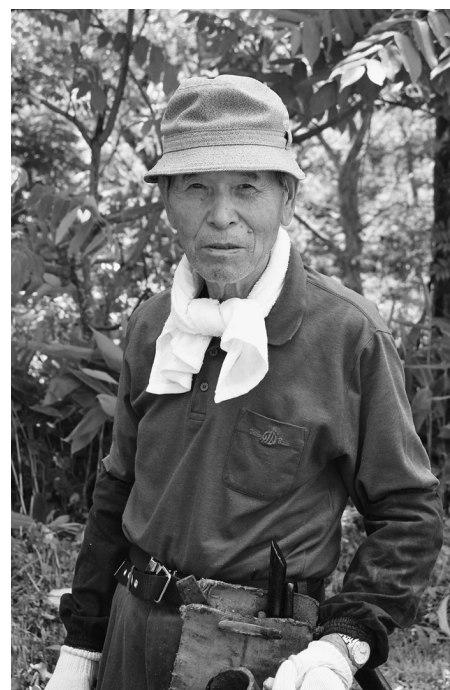


▲五味沢塗り
（白い森くらしの資料館所蔵）

対し、五味沢だけで5653本もの漆の木が栽培されていたことが記されています（『小国町史』）。

そもそも農閑期の副業として五味沢での漆器づくりを推奨したのも治憲公だとされています。『小国町史』によると、「（治憲公が）寛政2年（1790年）会津若松より木地塗物の師を招

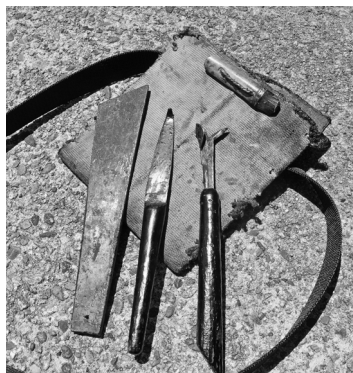
いて五味沢につかわし、村人をしてこの術を習得させた」ようです。ところが、明治に入ると、次第に木地づくりが衰退していき、それに伴い、塗り師も減っていききました。そして、掻き子（かきこ）と呼ばれる、漆の樹液を採る（漆掻き）職人も地元から姿を消していったのです。



▲舟山 勇氏

「俺が高校出たとき（昭和33年）、政治的な問題で一時、中国から漆が入ってこなくなっただんだ。それで漆が値上がりして。うちの親父は苗木屋をやっている、漆の苗もつくってだから、そういう話をどっからか聞いてきたんだ。それで、俺にバイク買ってやるから漆掻きしねえかって言ってな。バイク欲しくてやったんだ。山形から来て、塗り師をやっている人が町にいて、その人も昔漆掻いたことがあんだな。俺にやり方みな教えてくれてよ。道具もその人がくれた。

当時、漆は小国にいっぱいあったんだ。漆の木は（刈り取った稲を干す）ハセ掛けの突っ張



▲上／最初に大ナタで木肌を削り表面を滑らかにする
下／右から漆カンナ、刃から樹液をすくうヘラ、手持ちの壺から樹液を溜める桶へ移すときに使う竹べら
◆樹液を壺へすくう

りに非常に良いんだな。軽くて長持ちするということで。それで田んぼの脇さ、よく植（うわ）ってた。親父が木を買ってまわって、俺はバイクに乗って、それを掻きに行ったんだ。そういうふうにして北部の方で2年やった。3年目には小玉川まで行

ってみないかって親父に言われたども、田んぼはやってるべし、牛も飼って忙しくてよ、胃の調子を悪くしてしまつて。それで止めたんだ。」

舟山さんに約60年ぶりに漆掻きを実演してもらいました。まず、曲がった刃のついた長

いナタでござつござつした樹皮を剥（は）ぎます。そして、漆カンナと呼ばれるカンナで表面に傷をつけていきます。最初の刃（線）は約2cmと短く、その上に少しずつ長くしながら一本、また一本と数日置きに追加していくのです。「最初からどばつと傷つけるんでねく、少しずつ木を『だまし』ながら掻いていくんだな。」刃からにじみ出てくる漆液をヘラで丁寧にくいながら舟山さんは教えてくれました。

漆を掻くのは6月の、入梅の頃から10月までの間です。「俺の場合、3日で廻った。1回やったら中2日（木を）休ませてな。漆掻きは夜明け頃には現場さ行って、10時ぐらいまでには終わらせたもんだ。どうしても日中、暑いと木も弱るべ。それから、雨降ると休みだ。雨だと掻いたところがびたつと乾かねえで、だからだと液が流れ出て木が弱ってしまうんだな。」木をいたわり、大事に一滴ずつ採



▲漆掻き道具一式

平成30年第5回 小国町議会定例会

平成30年第5回小国町議会定例会が6月7日から12日まで開催されました。平成30年度一般会計補正予算など17議案が審議され、原案のとおり可決されました。主な内容は次のとおりです。

一般会計に4906万3千円を追加し、補正後の予算総額は58億1806万3千円に

■片貝地区の農業用水路が、融雪後に下部法面が崩れ、水路自体が崩壊する危険性があるため、農村のくらしづくり総合助成事業によりその改修を支援することとし、所要額を追加しました。

■5月17日から大雨により、大字岩井沢地内で松岡合口頭首工の幹線水路に土砂が流入、堆積し、付近の農地が冠水する被害が発生したほか、町内林道施設において、法面洗掘や法面崩壊等が発生したため、これ

らの復旧を図ることとし所要額を追加しました。

■大字あけぼの地内の高齢者住宅用地の一部について、民間事業者から介護サービス施設の用地として購入したい旨申し出があったため、売り払いに向けた測量調査を実施することとし、所要額を追加しました。

■今年度、町内公共スポーツ施設の在り方について、総合的に検討を進めることとしていますが、より専門的な見地からの指導、助言を得るため、学識経験者をアドバイザーとして招へいすることとし、所要額を追加しました。

町税条例の一部を改正

国が中小企業の設備投資促進に向け、「生産性特別措置法」を制定したことに伴い、町の「導入促進計画」に基づいて行われた町内企業の設備投資について、その固定資産税の課税標準額を3年間、その額に2分の1から0までの範囲で町が条例で定める割合

高校生議会・ 高校生との意見交換会 を開催します

小国町議会では、7月10日(火)に高校生議会を開催します。3人の小国高校生が町長に対し一般質問を行います。終了後、高校生と議会議員の意見交換会を開催します。

■期 日 7月10日(火)

■時 間

高校生議会 13:40~14:30

意見交換会 14:40~15:10

■場 所

役場議場および大会議室

■その他

高校生議会は傍聴可能です。傍聴席のスペースに限りがありますのでご了承ください。

■問合先 議会事務局
(62-2448)へ

を乗じて得た額とする軽減措置が講じられたため、本町では地域活性化を図るため、その乗じる割合を0とすることとし、所要の改正を行いました。

財産の取得

冬季除雪を円滑かつ効率的に確保するため、ロータリー除雪車1台を更新取得することとし、2業者による指名競争入札の結果、3981万690円で昭和建機株式会社に落札決定し、これに消費税額等

小国町固定資産評価

審査委員会委員の選任

現委員が6月23日をもって3年間の任期満了となることから、新たな委員を次のとおり選任しました。

○志田 藤夫 氏

(伊佐領・再任)

○渡部 孝弘 氏

(小国小坂町・再任)

○伊藤 玲子 氏

(あけぼの・新任)

白い森おぐにを まるごと体験してもらいました！

町では、町外のかたに本町の魅力的な町の人々や美味しい郷土料理などを存分に体験してもらい、将来的な移住につなげる取り組みを始めました。年6回予定しているツアーの1回目を6月16日、17日の2日間開催し、首都圏在住の5人の若者が、雑穀の定植やワラビ採りなどを体験しました。

今後の白い森おぐにまるごと体験にご期待！



去る5月16日、白い森まるごとブランド構想を推進し経済的な発展を目指すための司令塔となる「白い森みらい創生委員会」を立ち上げ、1回目の会議を開催しました。委員会には、町内の関係団体、企業、金融機関に加え、山形新聞社、新潟日報事業社、アドバイザーにも参画いただいています。

その中で、本町の魅力ある地域資源を掘り起こし、生産段階から流通、販売まで一貫したマーケティングを行ってこれまで以上の収益を引き出す「地域総合商社」について議論されました。委員からは、「町の産品は生産規模が小さいものが多いため、様々な産品のトータルプロデュースが必要」、「商社を早く立ち上げて、色々な試行錯誤をしていくことが重要」といった意見が出されました。

平成31年度の設立に向け今後具体的な検討を行っていきますが、6月7日には、地域総合商社の核となる人材の募集を開始し、既に多くのかたが本町の取り組みに関心を寄せてくださっています。小さな町の大きなチャレンジとなる地域総合商社には、町民の皆さんのご理解とご協力が欠かせません。ぜひ、小国ならではの地域総合商社のスタートに向けて、今後の動きに注目いただければと思います。

地域総合商社のスタートに向けて

移住者をまるごと応援します！

支援事業名	内 容	担 当
介護職員初任者研修費補助金	介護職員初任者研修費用全額を助成します。	健康福祉課長寿介護担当 (☎61-1000) へ
子育て世帯移住支援補助金	町外から転入する18歳未満のかたがいる世帯に対し、転居費を助成します。	健康福祉課福祉担当 (☎61-1000) へ
就業目的移住者転居費補助金	就業を目的として移住した世帯に対し、転居費を助成します。	産業振興課 移住定住促進担当 (☎87-0821) へ
小国町移住世帯向け食の支援事業	県外から移住した世帯に、米60kg、味噌3kg、醤油3Lを現物で助成します。	地域整備課建設管理担当 (☎62-2431) へ
小国の住宅総合支援事業補助金	移住者へ住宅を貸与する目的で空き家をリフォームした場合、改修費用を助成します。	教育振興課学校教育担当 (☎62-2141) へ
小国高校修学費助成事業補助金	町外から転入した世帯で小国高校入学者の保護者に対し、学校徴収金相当額を助成します。	

「お試し滞在補助金」
を活用ください！

■内容

町外在住のかたが、移住やUターンを目的に住居や仕事を探す場合、交通費・宿泊費の一部を助成します。

■問合せ先

産業振興課
移住定住促進担当
(☎87-0821) へ

※詳細は担当課までお問い合わせください。

※移住者とは、転勤・進学以外の目的で町外から転入したかたとなります。

平成31年度採用 小国町職員募集

■職種と募集人員

- ①上級行政（大卒程度） 若干名
- ②上級土木（大卒程度） 若干名
- ③初級行政（高卒程度） 若干名
- ④初級土木（高卒程度） 若干名
- ⑤保健師 1人
- ⑥社会福祉士 1人
- ⑦診療情報管理士 1人
- ⑧移住枠（初級土木） 1人

■受験資格

- ①②昭和63年4月2日から平成9年4月1日までに生まれたかた（平成31年3月大学卒業見込みのかたを含む）
- ③④平成5年4月2日から平成13年4月1日までに生まれたかた（平成31年3月高校卒業見込みのかたを含む）

- ⑤昭和53年4月2日以降に生まれたかた（保健師資格取得者、本年度取得見込みのかたを含む）
- ⑥昭和53年4月2日以降に生まれたかた（社会福祉士資格取得者、本年度取得見込みのかたを含む）
- ⑦昭和53年4月2日以降に生まれたかた（診療情報管理士資格取得者、本年度取得見込みのかたを含む）

のかたを含む

- ⑧昭和48年4月2日から平成5年4月1日までに生まれたかたで、土木工事に関する設計・管理の実務経験があり、現在小国町に住所がなく、本採用の決定に伴い小国町に移住することができるかた

■試験日及び会場

- ▽1次試験 9月16日(日) 長井市立長井南中学校
- ▽2次試験 10月中旬～下旬 小国町役場（予定）

■試験内容

- ▽1次試験
 - ①③⑦⑧教養試験、職場適応性検査、作文試験
 - ②④⑤⑥教養試験、専門試験
- ▽2次試験 面接試験（第1次試験合格者対象）

- 受付期間 7月10日(火)～8月6日(月)（郵送の場合必着）
- その他 申込書の請求方法や提出書類など、詳しくは担当までお問い合わせください。

■問合先

総務企画課行政管理担当（☎62・2112）へ

小国町土地開発公社の 分譲地の価格見直しについて

町土地開発公社で保有するあけぼの分譲地（宅地・商業用地・軽工業用地）や東原分譲地、上岩井沢分譲地の価格を次のとおり見直しました。なお各分譲地の区画ごとの販売価格は小国町土地開発公社ホームページで確認することができます。

場 所	改定前	改定後
あけぼの分譲地（宅地）	14,500～ 15,000円/㎡	9,000円/㎡
あけぼの分譲地（商業用地）	16,500円/㎡	9,500円/㎡
あけぼの分譲地（軽工業用地）	10,000円/㎡	5,500円/㎡
東原分譲地	10,601円/㎡	9,000円/㎡
上岩井沢分譲地	9,000円/㎡	8,500円/㎡

■問合先

小国町土地開発公社
（役場総務企画課内 ☎62-2264）へ

防災ラジオACアダプタの 不具合について

他の自治体で、本町と同機種の防災ラジオにおいて、ACアダプタに亀裂の不具合品が含まれていたことが判明いたしました。不具合の数量は、納品数の0.15%と報告されておりますが、町内に配布している防災ラジオのACアダプタにおいても、不具合のものが含まれている可能性があります。現在使用中の防災ラジオのACアダプタに亀裂が生じることなどが発生しましたら、無償交換させていただきますので、担当まで連絡くださるようお願いいたします。

■内 容 防災ラジオのACアダプタカバーの継ぎ目の割れ

■原 因 アダプタカバーの樹脂が弱いこと

■その他 通電に支障はありませんが、亀裂に水などが入りますと危険ですので、交換が必要です。

■問合先 総務企画課管財危機管理担当
（62-2112）へ

赤ちゃん応援ギフト 第1号に高橋椿ちゃん

町では今年度、子どもが生まれた世帯にお子さんの名前の刺繍が入ったバスタオルを贈る赤ちゃん応援ギフト事業を開始しました。

第1号となった高橋椿ちゃんの母・高橋明子さんに6月12日、仁科町長から応援ギフトが直接手渡されました。今後は、保健師が各家庭を訪問し、赤ちゃん応援ギフトをお届けいたします。なお、刺繍は漢字、ローマ字などから、糸の色も数多くから選ぶことが可能になっています。



地域おこし協力隊に 吉田^{ゆうと}悠斗^{さん} が着任しました



年 齢 24歳
出身地 埼玉県上尾市
居住地 樽口地区

6月1日から本町の地域おこし協力隊に、埼玉県出身の吉田悠斗さんが着任しました。

吉田さんは、大学卒業後、都内の事業開発を行う会社に勤務していましたが、昨年小国町に初めて訪れて以降、半年間で5度本町に足を運び、農家のかたを中心に交流を深めていたそうです。今後は樽口地区に居住し、農業技術や経営手法を習得し就農を目指していきます。

吉田さんは、「農業だけでなく小国の文化などにも関わり、町全体の農業振興に貢献したいです。また、これまでお世話になったかたに恩返しができるよう、精一杯頑張りたいと思います。小国の美味しいものを地元や首都圏の人に知ってもらえるような活動も展開したいです。」と話してくれました。

白い森の国“ふるさとおぐに”フォトコンテスト作品募集

山岳、溪谷、動物、地域行事、郷土芸能など、小国町の魅力的な観光資源をPRする写真を募集しています。皆様のご応募お待ちしております。

- 応募締切 平成31年1月31日(木)当日消印有効
- 賞金等 一般の部：最優秀賞10万円、優秀賞5万円、特別賞1万5千円
町民の部：優秀賞1万5千円
- 作品規格 カラープリントで四ツ切判、四ツ切ワイド判、A4サイズ
- その他 詳しくは町ホームページをご覧ください。
- 問合先 産業振興課観光交流担当 (☎62-2416) へ

入札結果情報 (平成30年5月21日～平成30年6月20日実施)

単位(円)

入札日	工 事 名	施行場所	工期(完了)	予定価格	落札業者	落札価格
H30.5.28	平成30年度除雪機械購入	小国小坂町	H30.10.31	42,215,690	昭建機(株)	39,810,690
H30.5.28	平成30年度小国町新型Jアラート受信機更新工事	小国小坂町外	H30.10.31	8,134,000	山形パナソニック(株)	7,580,000
H30.6.7	平成30年度小国町水道事業大宮地内送配水管布設切替工事	大宮	H30.8.10	24,973,000	安部工業(株)	23,000,000

*入札結果情報の金額は消費税及び地方消費税を含みません。

募集

町営住宅入居者募集

- ① 町営住宅小坂町団地
3DK 2戸(3・4階)
■家賃 所得と家族構成による
■その他 所得制限あり
- ② 町営住宅あけぼの団地
3DK 2戸(2・3階)
■家賃 所得と家族構成による
■その他 所得制限あり
- ③ 町営住宅あけぼの高齢者団地
1LDK 1戸(1階)
■家賃 所得と家族構成による
■対象
- ▽世帯所得が21万4千円以下
で住宅に困っているかた
▽60歳以上のかたで自立した
生活を送ることができ、同
居するかたが配偶者または
60歳以上の親族であること
- ④ 小坂町勤労者住宅
2DK 1戸(3階)
■家賃 38000円
■対象 町内事業所にお勤めのかた
- ①④共通
- ◎敷金 家賃の3カ月分
- ◎募集期限 7月10日(火)

- ◎入居時期 7月下旬以降
- ◎問合先 地域整備課建設管
理室(☎62・2431)へ
- 夏休み親子クッキング教室
参加者募集

食育を学び、旬の食材を使っ
た料理教室を開催します。笹
巻き作りとだしなど伝統料理
にチャレンジしよう!

- 日時 7月30日(月)10時～13時
- 場所 健康管理センター森
のホール

■対象 保育園の年長児から
小学生と保護者のかた(友
人、弟妹など小学生のみ
の参加も可能です)

- 申込締切 7月20日(金)正午
- 参加費 無料
- 申込・問合先 健康福祉課
(☎61・1000)へ

ご案内

小国町社会教育講座

- 日時 7月7日(土)
9時30分～11時
- 場所 役場4階 大会議室

- 講師 山形大学地域教育文化学部
准教授 安藤 耕己氏
- 演題

学区単位の社会教育振興を
考える「公民館・コミュニ
ティセンターの歴史と現状
をもとに」

- 参加費 無料
- 問合先 教育振興課(☎62
・2141)へ

健診結果説明会を開催します

町では、皆さんに健診結果
の見方について理解を深めて
もらい、さらなる健康づくり
ができるように健診結果説明
会を開催します。

- 期日 ①7月12日(木)②8月
3日(金)③8月31日(金)④10月
1日(月)⑤11月1日(木)⑥12月
20日(木)
- 時間

- ①③④10時～11時30分
- ②⑤⑥14時～15時30分
- 場所 健康管理センター風
のホール

■対象 町民のかたで特定健
診、人間ドック、後期高齢

- 者の健康診査、がん検診を
受診したかた
- 問合先 健康福祉課(☎61
・1000)へ

狩猟免許の更新に係る 適性検査および講習について

- 日時 7月18日(水)
13時～16時30分
- 場所

おぐに開発総合センター
■受験資格 県内に住所を有
し、有効期限が平成30年9
月14日の狩猟免許を所持す
るかた

- 問合先 置賜総合支庁環境課
(☎0238・26・6035)へ

初心者向け狩猟免許講習会

- 日時 7月28日(土)
9時～16時30分

- 場所 赤湯公民館(えくぼ
プラザ)1階 大会議室
- 対象 これから新たに狩猟
免許を取得するかた
- 受講料 5000円

- 問合先 山形県猟友会(☎023
・624・0382)へ

7月の 保健カレンダー

1. 各健診の日程等

■4カ月児健診

- ・期 日 7月27日(金)
- ・受付時間 13:10~13:20
- ・対 象 平成30年3月生まれ

■1歳児健診

- ・期 日 7月27日(金)
- ・受付時間 13:00~13:10
- ・対 象 平成29年7月生まれ

■3歳児健診

- ・期 日 7月13日(金)
- ・受付時間 12:30~13:00
- ・対 象 平成26年11月、12月、平成27年1月生まれ

2. 場 所 健康管理センター

3. その他

母子健康手帳を持参ください。

4. 問合先 健康管理センター (61-1000) へ

子育て支援センターから

■7月の広場日程

広場名称	曜日	時間	申込
なかよし広場	月～金	9：30～11：30・13：00～15：30 (水・金は午後のみ)	不要
	27日(金)午後は休みにになります		
子育て講座「絵画製作」	7月5日(木)9：30～11：30 子育て支援センター		不要
子育て講座「エアロビクス」	7月19日(木)10：20～11：20 健康管理センター		不要

■対象者 なかよし広場・子育て講座 就学前のお子さんとお家のかた

■その他 平日はいつでも子育て相談に応じています。また、白百合保育園(水曜午前)、すみれ保育園(金曜午前)でも同様の場所を設けています。詳細は各保育園にお問い合わせください。

■問合先 子育て支援センター(おぐに保育園内 ☎62-2330)・白百合保育園(☎62-2436)・すみれ保育園(☎62-5284)

休日当番担当歯科医のお知らせ

7月1日(日)	米沢 金子歯科医院	0238-23-0909
7月8日(日)	米沢 みわき歯科クリニック	0238-24-2418
7月15日(日)	白鷹 岩崎歯科医院	0238-85-2003
7月16日(月)	高畠 桜井歯科医院糠野目診療所	0238-57-3211
7月22日(日)	米沢 春日歯科医院	0238-22-3030
7月29日(日)	川西 安川歯科クリニック	0238-54-0210

求 人 情 報

右の表は6月19日現在でハローワークへ登録された求人のうち、小国町をおもな就業先としている求人情報です。既に雇用が確定している場合もありますので、ご了承ください。
求人情報の詳細については、ハローワーク長井(☎84-8609)へ。

今月の納税 2018.7

7月の税金等の口座振替は、次のとおりです。振替日の前日まで、指定の口座に入金してください。

●7月26日(木) 水道料

●7月31日(火)

固定資産税、国民健康保険税・後期高齢者保険料、介護保険料、下水道料、簡易水道料、住宅使用料、保育料、児童福祉使用料

■問合先

町民税務課税政管理室
(62-2403) へ

事業所名	職種	求人数	勤務時間
大河内産業(有)	一般事務員、砂利プラント運転士、ダンプ・重機運転士	各1人	8:00~17:00
荒川興業(株)	製造加工、製造加工【アークカーボン加工】、製造加工【モーター用ブラシの加工】、経理事務	計17人	8:20~17:10他
特定非営利活動法人おぐにスポーツクラブYui	(臨) スポーツ指導および業務スタッフ	1人	8:30~17:15他
大和建設運輸(株)	土木施工管理技士	1人	8:00~17:00
社会福祉法人小国福祉会	介護員【年度更新】、介護員	各1人	6:30~15:30他
アクサ生命保険(株)長井営業所	商工会議所・商工会共済・福祉制度推進スタッフ	2人	9:15~16:00他
山和建設(株)	1級土木施工管理技士・1級建築施工管理技士 2級土木施工管理技士・2級建築施工管理技士	各3人	8:00~17:00
第一ホール小国店／(有)コンズカンパニー	ホールスタッフ	計3人	8:30~16:15他
(株)コメリ	販売・店舗運営職(リージョナル社員)	2人	8:45~17:45他
ハイコー(株)	電気工事(見習い可)	3人	8:00~17:00
おぐに白い森(株)	応接員	2人	7:00~19:00他
(株)小国いきいき街づくり公社	販売員	1人	9:00~13:00他

※先月号掲載分以降に新規で登録された求人を掲載しています。
※町ホームページに求人情報を掲載しています。

7月の あいイベント

夏祭リスポーツ&流しそうめん

- 日 時 7月27日(金)16:00～18:00
(雨天決行)
- 対象者 小学生以上
- 持ち物 室内シューズ、飲み物
- 参加費 小学生以下300円、中学生以上500円
- 申込締切 7月25日(水)



マイクロバス大人旅ウォーキング教室

- 宮城川崎ポピーウォーキング
- 日 時 7月20日(金)8:00～
- 集 合 多目的屋内運動場あいべ 8:00集合
- 対象者 どなたでも
- 持ち物 飲み物、着替え
- 参加費 会員3,000円、非会員4,000円
(保険料、食事、入浴代込)
- 申込締切 7月17日(火)

- 申込・問合先
(☎62-5808)

おぐにYui
スポーツクラブ

◆◆◆森林セラピーミニツアー◆◆◆

～森林セラピーアテンダントの案内のもと
飯豊連峰の麓で森林セラピーを楽しみませんか～

- 期 日 7～8月の日曜および祝日（7/8～8/26）
- 場 所 森林セラピー基地 温身平
- 参加方法 温身平の入り口（湯沢ゲート）にアテンダントが常駐（9:30～15:00）していますので、その場で申込みください。
- 内 容 1時間程度の温身平案内
- 案 内 料 1,000円/人（小学生以下は無料）
- 問 合 先 特定非営利活動法人ここ掘れ和ん話ん探検隊
(☎62-5955) へ

総 合 セ ン タ ー 図 書 室 か ら

～新着図書～

- ◇青くて痛くて脆い
- ◇15歳のコーヒー屋さん
- ◇七色結び
- ◇やまがた百名山
- ◇図書館がまちを変える

休館日 毎週月曜日・祝日

- 住 野 よる
- 岩 野 響
- 神 田 茜
- 福 留 強

相 談

▽消費者相談

- 日 時 7月28日(土)
10:00～12:00
- 場 所 役場
- 対応者 司法書士 舟山健蔵氏
- その他 事前に申込みが必要です
- 申込・問合先 町民税務課町民生活担当へ

▽行政相談

- 日 時 8月4日(土)
10:00～12:00
- 場 所 役場
- 対応者 行政相談委員 齋藤恒助氏
- 問合先 町民税務課町民生活担当へ

町民プールが 7月7日オープン!

7月7日(土)から一般のかたへの町民プールの利用を開始します。

- 利用期間 7月7日(土)～8月26日(日)
- 利用時間 9:00～11:30
13:00～16:30
- 利用料 無料
- 問合先 おぐに開発総合センター
(☎62-2141) へ

白い森おぐに湖体験

- 日 時 8月5日(日)8:30～
- 場 所 開会式を「水源の郷交流館」駐車場で行います。その後、各会場へ移動します。
- 内 容 パークゴルフ体験、カヌー体験、木工教室、黒沢峠トレッキング、釣り堀体験、横川ダム・発電所見学など
- 定 員 黒沢峠トレッキングは定員を設ける予定です。その他については定員を設けず、先着順にお楽しみいただけます。
- 問合先 横川ダム管理支所（☎65-2363）
または役場総務企画課（☎62-2264）へ



●小国町役場 ☎62-2111(代)fax62-5464
 ●行政管理室・管財危機管理室 ☎62-2112 ●企画財政室 ☎62-2264 ●会計室 ☎62-2406
 ●住民窓口担当・町民生活担当 ☎62-2260 ●国保医療担当 ☎62-2261 ●税政管理室 ☎62-2403
 ●白い森ブランド戦略室・移住定住促進室 ☎87-0821 ●商工観光室 ☎62-2416 ●農林振興室 ☎62-2408
 ●建設管理室 ☎62-2431 ●建設技術室 ☎62-2432 ●議会事務局 ☎62-2448



戸籍のまど

(5 月 届 出 分)

誕生おめでとうございます。

兵 庫 館 高 橋	つばき 椿	(恭 史)
小 国 町 小 関	るい 琉生	(一 則)
松 崎 仁 科	よう 曜	(駿 平)
白 子 沢 遠 藤	ひより 日和	(和 瞳)
兵 庫 館 伊 藤	こころ 桜	(利 奈)

おくやみ申し上げます。

舟 渡 塚 原 秋 子	(68)
古 田 中 山 鉄 男	(80)
玉 川 渡 邊 キイ子	(95)
兵 庫 館 渡 部 ナ カ	(87)
長 沢 益 田 博 子	(48)
幸 町 桃 井 ハル子	(92)
小国小坂町 今 イ ク	(89)
小 国 町 泉 シ ノ	(89)
太 鼓 沢 安 部 イ ツ	(80)
北 保 科 京 子	(83)
岩 井 沢 後 藤 幸 夫	(96)

※この欄に掲載を希望しないかたは、届出の際にお申し出ください。

人口のうごき (平成30年5月31日現在)

人口 男	・ ・ ・ 3,815人 (5)
女	・ ・ ・ 3,863人 (12)
計	・ ・ ・ 7,678人 (17)
世帯数	3,090世帯 (2)

編集後記

最近、蒸し暑い日が続いています。朝晩の寒暖差で、体調不良にならないよう、十分お気を付けてください。
 今月の表紙は投網。川に行くと、梅雨時期などに水量がとてもしずななと感じました。川に入ると撮影していると、徐々に深い場所に行くと、いつの間にか靴に水が入ってしまいました。もちろん濡れる覚悟はしていましたが、この時期の川の水は、まだ冷たく、全身は入れませんが、足だけならとても気持ちがいいなと感じました。(斎藤)

仕事 vol.3 図鑑

大宮産業株式会社小国工場

代表者 代表取締役 牧野 次成
 従業員数 22人
 所在地 小国町大字兵庫館3-5-18
 事業概要 アパレル全般の縫製業

大宮産業(株)小国工場は、昭和48年6月に大宮テックス(株)として誕生しました。昭和54年に現在の社名になり、今年で操業45周年を迎えます。古くは「Gパン工場」として親しまれ、現在は親会社のユニオンレーディング株式会社(埼玉県)が手掛けるオリジナルアパレルブランド「HOUSTON(ヒューストン)」などの国内唯一の生産拠点として、シャツやジャケット、アウター(上着)などの製品を、ほぼ全工程を手作業で作っています。

同工場に勤める渡部千代子さん(大石沢)と井上たか子さん(綱木箱口)は、「生地によって、縫い直しができないものもあるため大変気を使います。ポケットや襟など担当する工程だけでは、どんな製品になるのかと思いますが、完成した製品を見るととてもうれしいですし、感動します。ほぼ全ての工程が手作業で、各工程で縫い方なども違うため、あまり経験のない工程では時間がかかっても、丁寧な仕事を心がけています。私たちが作った製品が全国各地、世界各国で着用されていると考え、とてもうれしく思います。」と話してくださいました。

大宮産業(株)小国工場では、特に防寒性に優れた厚手の製品の縫製を得意としており、その中には、有名映画で主人公が愛用していたものなどもあり、売れ筋製品については、年間約2,000着以上の生産を行っています。現在、国内でも外国人の職人が多くなっている中、大宮産業(株)小国工場では小国出身の職人が、日本ならではの風合いや感性を大事にしながら、温かみのある製品づくりを行っています。



▲渡部千代子さん(左)と井上たか子さん(右)

無言の語り部たちⅡ

その③

「念仏百万遍供養塔」(白子沢)

越後街道十三峠のひとつ、

オノ頭峠。その白子沢側上り口付近に、地藏尊と並んで「念仏百万遍供養塔」という碑が2基ひっそりとたたずんでいます。その一方には安永元(1772)年8月24日、もう片方には万延元(1860)年8月1日という年号が刻ま



▲オノ頭峠の入口と地藏尊

れています。

百万遍念仏(念仏百万遍)とは、「阿弥陀経などに基づいて多くは7日間にわたって念仏を唱え、百万遍に達せしめて、罪状消滅、極楽往生を願う作法」のことです(『小国の文化財』。鎌倉時代以降、法然の浄土教が全国に広まっていくなか、仏僧だけでなく民衆の間でも盛んに行われるようになってきました。信者たちは「10人、20人と講中をつくり大数珠を繰りながら、曲調をつけた念仏を唱和し、悪疫退散などを祈願した」のです。二村敏子さん(白子沢)によると、この白子沢地区でもかつては葬式後に近親者が家に集まり、大きな木製の数珠を回しながら念仏を唱え、死者を供養する「数珠まわし」

という慣習があったそう。この数珠は今でも白子沢の済安寺に保管されているとのこと

です。今では住民の間で伝承はされていないようですが、日照りや害虫、疫病の発生を防ぎ、作物の豊作や集落の安寧を祈るため百万遍念仏が、葬式の時だけでなく夏期(石碑に記された旧暦8月頃)にも行われていたのでしょう。

小国の信仰には、「昔は農業に書を与えたものがいろいろあったが、中でも風、日照りと害虫であった。害虫を防ぐには、提灯を作って村を練り歩き最後に川に流すとか、藁で作った人形を作って悪神



▲オノ頭峠の白子沢側上り口付近にある2基の念仏百万遍供養塔

(虫)を村はずれで焼くとか、かつては東北全域で行われた虫送りの行事を、ここ白子沢でも風祭をやり、仏の力を借りるため念仏百万遍の供養を催して、秋の慰安にあてたものであろう。」とあります。

稲の花が咲き、やがて稔りを迎える初秋。人々は仏の力にもすがりながら、疫病や害虫から村を守ろうとしました。圧倒的な自然の力に畏怖しながら桜川の谷合いで集落を築いてきた人々の、そのような真摯な祈りがこの石碑に宿っているのです。